

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE; Carbapenem-Resistant Enterobacterales）による院内感染について <第1報>

当院では、2024年4月22日に1例目のCRE（カルバペネム耐性腸内細菌科細菌）陽性患者さんを確認して以降、徐々に陽性の方が確認されています。

感染拡大防止を目的として、2025年5月13日には全入院患者さんを対象に、便または喀痰によるCRE検査を実施いたしました。さらに、7月8日には3回目の便・喀痰・尿を対象とした検査を実施し、新たに3名のCRE陽性患者さんが判明しました。

2024年1月から現在までに確認されたCRE陽性患者さんは、累計56名です。このうち22名の方が、現在、院内で感染対策を講じたうえで隔離入院中です。なお、これらの方々はいずれもCREによる発症はなく、菌を保有している「保菌者」の状態であり、症状は認められておりません。

当院では、今後も引き続き、月に1回、全入院患者さんを対象としたCRE検査を継続し、感染拡大の予防に努めてまいります。

患者さんをはじめ、当院をご利用の皆さま、関係機関や地域の皆さまには、多大なご心配をおかけしておりますことを、心よりお詫び申し上げます。

感染対策の強化のため、当院では2025年4月21日より、国立感染症研究所、道立衛生研究所、静内保健所、ならびにグループ法人である札幌東徳洲会病院などの専門家の皆さまから継続的な助言をいただきながら、感染防止対策を徹底しております。

【CRE（カルバペネム耐性腸内細菌科細菌）とは】

私たちの腸の中には、多くの細菌が住んでおり、その中には健康維持に役立つものもあれば、病気を引き起こす可能性のあるものもあります。

近年、抗生物質の効きにくい「薬剤耐性菌」が増えており、CRE（カルバペネム耐性腸内細菌科細菌）はその一種です。CREは、強力な抗生物質であるカルバペネムに対して耐性を持つ腸内細菌で、特に免疫力が低下している方や、長期入院中の方などで感染するリスクが高くなります。

CREは空気感染や飛沫感染は起こしません。主に人の手を介して広がるため、**手洗いや手指消毒が非常に効果的な予防法**となります。

健康な方がCREを保菌していても、通常は問題ありません。しかし、体力が低下している方や治療中の方が感染した場合には、治りにくい病気を引き起こすことがあります。そのため、病院では職員全員が徹底した手指衛生を実施しています。

退院後、ご自宅や介護施設などに戻られた場合でも、**石けんによる手洗いやアルコール消毒を徹底していれば、他の方に感染する可能性は極めて低い**と考えられています。

【入院・生活・面会について】

病室について

国の基準では、CRE 陽性者は個室が望ましいとされていますが、状況に応じて同室の大部屋での対応も許容されています。もちろん、感染対策は十分に行った上での運用となります。

リハビリ・入浴について

感染対策を講じたうえで、リハビリはこれまで通り実施しております。入浴に関しては、順番を最後にするなど配慮しつつ、通常通り行っております。

面会について

CRE は空気感染や飛沫感染を起こさないため、感染者の方への面会も通常通り可能です。ご面会時には、医療スタッフの指示に従っていただくようお願いいたします。

引き続き、患者さんの安全を最優先に、感染対策に取り組んでまいります。また、感染状況や当院の対応については、今後も定期的に情報を公開してまいります。ご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、本件に関するご意見・お問い合わせは、下記のメールアドレスまでご連絡ください。

【お問い合わせ先】 contact@hidakatokushukai.com

2025 年 7 月 15 日

日高德洲会病院 院長 井齋 偉矢